

「知事とのフレッシュトーク」 概要 (令和5年1月19日(木) 県立八戸東高等学校)

知事が高校生の皆さんとこれからの青森県や自分たちの将来に関して意見交換を行う「知事とのフレッシュトーク」について、県立八戸東高等学校での実施概要をお知らせします。

生徒による学校紹介の後、代表生徒と知事が意見交換を行いました。

(参加：2学年生徒22名)



(発言生徒1 2年女子)



私は、将来はテレビ番組を制作するような職業に就きたいと考えています。青森県にさらに人を呼び込むために、観光に関する魅力的な活動を増やすことを考えました。

まず県外・県内の皆さんにその活動を意識してもらうためには、インセンティブを活用することが大事だと思います。インセンティブとは、目標を達成するための導きです。

例えば「みちのく潮風トレイル」などに参加し、青森の自然を楽しむ人とそれに協力するボランティアの方に「あおりポイント」を付与し、貯まったポイントを利用して青森県内のお店やホテルで使用できるクーポン券を配布するというアイデアはいかがでしょうか。

りんご・長いもなどの県産品と交換できるのも面白いと思います。そしてクーポンが使用できるお店やホテルも募集します。「あおりポイント」の運用はスマートフォンなどのアプリを利用します。

私が住んでいる階上町では、「はしかみおもてなしエンジェル」という活動を実施中です。「みちのく潮風トレイル」を楽しんでいる人へ、お店や個人宅でトイレや休憩場所を提供する、階上岳や海岸のガイドをする、陶芸体験や民泊を提供するといったことを実施していました。このような活動をしている人へ県の支援があればいいと考えました。

県内の観光を活性化させるために、観光に携わる人へ充実した支援を行うことで、魅力的な活動が増えていくと思いますが、このような支援は行われていますか？

(知事)

はい。それぞれお答えしたいと思います。

我々青森県としても、ポイントのことも含めて、いろんな仕組みを整えてやっています。

担当課からお願いします。



(観光企画課)

青森の観光を支えていただいている観光事業者さんに光を当てて、県内外の皆さんに認識してもらうということは、すごく重要なことだと思っています。今、このスライドに写っている方々は、青森県内各地で観光客の皆様をお迎えする活動をしてくださっている方々です。いろんな業種の方々に青森県の観光は支えられています。

県では2014年から2019年まで、県民の皆様の「おもてなしの取組」というのを募集して、おもてなしアワードということで表彰していました。この様子はメディアや県庁のホームページなどを通じて発信され、この方々の取組を広く知ってもらうことと併せて、これを見ていただいたまた別の県民の方々が「自分たちもこういうことをやればいいんだ」「自分たちもこういうこと、この自分が住んでいる町でできるんじゃないかな」という気運を高めることで、青森県を観光で訪れる方々に「青森に来てよかった。青森の人は温かいな」って思ってもらえるような環境づくりをしてきました。

その効果もあって、「じゃらん」の宿泊旅行調査2022年では、旅行に対する総合的な満足度は青森県が全国6位になっています。それから地元の人のホスピタリティに関しては7位という数字になっています。

青森県の観光を支えてくれているプレイヤーに光を当てることと併せて、県内各地で観光を盛り上げていてくれている団体への支援を行う。ここを今県は考えていて、これによって青森の観光をもっともっと盛り上げていきたいと思っています。



その地域で観光のけん引していく役割を持ってもらっているのがこの観光地域づくり法人、DMO (Destination Management Organization) と言っていますが、やはり今の観光産業が盛り上がっていくためには、稼ぐという視点、誇りや愛着を持てる観光地域づくり。これが非常に大事です。「観光地経営」というふうに呼んでいるんですが、観光地経営の視点に立って地域を作っていく舵取り役がDMOです。

青森県内のこの観光産業をリードしていくDMOの皆さんが力を入れていく、力をつけていくこと、これが県全体の盛り上がっていくためにすごく重要と考えているので、今、青森県庁はこのDMOの皆さんの支援を行っています。

この国への登録制になっているDMOは現在、県内には5つあり、それぞれの担当地域の観光地域づくりを進めています。八戸を担当するのは、八戸駅前、ユートリーにある「VISIT はちのへ」です。

このDMOというのは、DMOに所属して働いている人たちはもちろんですが、それぞれの地域の交通事業者、農林漁業の皆さん、飲食店の皆さん、市役所や役場の皆さん、そして実際に住んでいる住民の皆さんと一緒に稼ぐ観光地を作って、地域にお客様を呼び込む、そういう役割を持っています。

このDMOの役割というのが非常に大事だと思っているので、この中に私たちはリーダーを育成したいと考えています。普段の業務の中でなかなか勉強できないことを得てもらうために、国内の先進的な取組を行っているDMOに職員を研修派遣しています。これは昨年度から始まっている事業ですが、県内のDMOの中のリーダーを育成することで、その人たちがそこで得た学びを青森県の観光振興に役立ててもらいたいと思っています。

今年度は宮城県の気仙沼市にある気仙沼地域戦略というDMOに派遣しています。気仙沼では気仙沼クルーカードという取組をしていて、今回提案してくれた「あおもりポイント」のように、ポイントを活用して売る側も買う側もウィンウィンな関係が作れば、地域の経済がもっと回るようになると思います。

気仙沼市にあるこの気仙沼地域戦略では、もう実際にこの気仙沼クルーカードというシステムを使って活動が進んでいるので、県内のDMOの職員を派遣して、先進的な取組を勉強してもらって

ます。

このような取組を通じて、青森県のために頑張ってもらうための活動をサポートしていきたいと思っています。

また、観光に携わる方々を応援するという取組は、人財育成もありますが、青森にお客様に来ていただく、お客様を呼び込むということが最大の支援でもあります。コロナ禍でも地域の方々と一緒に青森の魅力を発信するというを行いました。

では、次にこの動画を見てください。

<ビデオ再生>

最近メタバースという言葉がよく出てくるとは思います。青森県の特徴のある観光資源というのは、見方や角度を変えることで、今まで見慣れていた景色も全然違うものに見える、そういうことができるということで作った動画です。これは YouTube で発信していますが、このような新しい角度でも青森の情報を発信しています。



これまででもメディアやSNSなど使う他、知事が県内外でのセールスを精力的にやってきました。コロナ前には県内の高校生が、台湾に行って一緒にPRをしてくれました。

今、観光産業も厳しい状況に立たされているというのは現実です。ただこれから経済を回すことを意識し、感染対策を講じながら、青森にも遠くのお客様に来ていただき、青森の観光産業が盛り上がり、もっと観光に関わる方々に光が当たるよう、これからも活動していこうと思っています。

(知事)

農林水産業はコロナがあっても、売りまくって、攻めまくって農業産出額 3,000 億円をキープしている。観光は厳しい状況となったが、私たちの観光産業には軽く 3,000 億円の力があると思っています。そうすると 1,000 億円のお金が県内に回るということになる。例えば給料をもらった、何か野菜を買った、農家に回した、農家がカラオケに行ったら、そういう感じで回るからね。だから間違いなく青森県のこれからの重要。



インバウンドはコロナ前に(東日本大震災前と比較して)570%伸びたんだよ。伸びるだけの力を持っている素材と人がいる。この観光産業については農業と同じように 3,000 億円に軽く届くと期待するという事です。

こういう感じで分かっていただけでしたか。

(生徒1)

はい。

(知事)

将来の夢をもう一度話ってください。

(生徒1)

テレビ制作、テレビ番組を制作することです。

(知事)

そのためには何が必要だと自分で思っていますか。

(生徒1)

私はドラマが好きでドラマを作りたいので、ドラマを見て研究しています。

(知事)

その一歩手前の原作というのかな。本を読むということ。映画とか原作になる本とか、そういった古典というか基本的な基礎教養はすごい大事。基礎教養があると、新しいタイプのドラマができると、そういうことです。

しっかり、受験勉強もしなければいけないけど、基礎的な勉強と同時に、時間があつたらいろんな本読んで、想像力と文章力をどんどん付けて、その映像をいつか自分でコンテに書いてやると。そのことに進んでください。大いに期待しています。自分の向かう道のためには、最もふさわしいところを自分で選んで突破して進んでください。将来に向かってしっかり勉強して歩んでください。

(発言生徒2、2年女子)

私は将来、歯科衛生士になりたいと思っています。

歯科衛生士を目指す立場として、80歳で自分の歯を20本残す、8020運動などを通して短命県返上に貢献したいです。そのためには自分の歯の状態を知らなければなりません。そこで「あおり8020クリーンアップ運動」と題し、歯垢除去クーポンを発行します。また協力してくれる歯科医院を募集します。歯垢除去の費用は県と歯科医で折半します。これは歯科医にとっても県民にとっても良い取組だと思います。虫歯の早期予防につながり、歯の健康についてかかりつけ医を見つけることができます。県民に知らせる方法としてはQRコードが付くポスターを学校や駅などに張り出すのはいかがでしょうか。



(知事)

ありがとう。すごく大事な青森県民の健康の問題について話をしてくれたと思っています。その中でも8020、80歳で20本自分の歯を持つということ。



歯が健康だということ、そしてものがきちっと食べられるということは、すごく大事。フレイルって知っている？体をあまり動かさないうちに筋肉が固まったりとか、このフレイル状態になると動けなくなったりします。その場合、歯のフレイル状態でもものすごくいろんなことに悪影響を与える。だから歯垢を除去するというはとても正しいアイデアだと思っています。

とても重要で絶対にやるべきことを言ってくれたと、私としてはそう思っています。

それでは担当課からお答えをします。お願いします。

(がん・生活習慣病対策課)

ご意見ありがとうございます。歯の健康づくりに着目してもらいうれしく思います。歯垢は歯ブラシなどでは完全に取除くことができないため、歯科衛生士による治療器具を用いたプロフェッショナルケア、歯垢除去が必要です。そのためにはかかりつけ医を定期的に受診することが大事です。

また説明にありました8020運動、80歳で20本以上の歯を保つためには、幼児期からの虫歯予防、大人の歯周病予防が必要です。そのため県では県の健康増進計画において、虫歯や歯周病などの8つの項目を設定し、さまざまな取組をしていますが、いずれの項目も目標値には届いていない状態です。



このグラフは、8項目の内の虫歯についての青森県の現状ですが、虫歯のない3歳児の割合は79.3%で、全国の88.2%と比較すると約10ポイントの差があり、残念ながらここ数年、全国最下位となっています。

県では乳幼児の虫歯予防としてフッ素塗布を推進しており、県内40市町村の内36市町村でのフッ素塗布が行われ、クーポン券を発行している市町村も15市町村あります。

では皆さんの年代はどうでしょうか。残念ながら高校生だと青森県では52.2%、全国の60.2%と比べると差があります。これは乳歯の時期に虫歯が多い状態だとお口の中の細菌の数が減少せず、新たに生えてきた永久歯も虫歯になりやすいと考えられるため、虫歯のない3歳児の割合が低い本県では、高校生でも同様な傾向にあると思われま

す。次に成人期以降では、若年期の虫歯菌に代わる今度は歯周病菌が増えることによる、いわゆる歯周炎に罹りやすくなってきます。進行した歯周炎に罹った人口の割合は、左のグラフに示すように、約6割以上になっています。

また60歳以上になると、永久歯28本に対し自分の歯を24本持つ人の割合も大きく減少していくのが分かります。

近年では歯周病は歯を失う病気ばかりでなく、歯周病菌の出す毒素は血液を通じて全身の臓器などに影響を与える、糖尿病や肺炎といった全身疾患との関連も分かってきました。やはりそのような意味からも歯と口の健康は重要です。

本県では歯と口の健康づくりの取組を推進する機関として、青森県口腔保健支援センターを設置しており、歯科医師・歯科衛生士が勤務して歯科に関する色々な団体と連携しながら取組を行っています。

青森県口腔保健支援センターの具体的な取組についてご紹介いたします。ポスターの作成・配布、イベントなどのブースの設置、研修会での講師や、歯と口の健康に関する意識の向上など、啓発活動を行っています。

訪問指導では、幼稚園や学校・事業者等からの依頼があり、希望の内容に沿った資料や教材などを使い、講話や実技をしています。

訪問歯科指導は平成の時代には60件から70件ほどの依頼があり、約4,700人に対して講話や実技を実施してきましたが、令和の時代に入り新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、依頼件数がだいたい11件から15件で、対象人数も1,500人程度となっています。

歯科衛生士は歯の健康づくりや歯科治療に従事するのみではなく、医師や看護師などといった歯科以外の職種等とも連携しながら、歯と口の健康管理等も行っています。

青森県の健康寿命延伸のために、重要な職種に位置付けられていますので、是非とも頑張ってください。

(知事)

年に一度、学校の歯科医の先生が必ずチェックに来るはずですが、その時に是非ブラッシングの指導を、校長先生、よろしく願います。というのは将来お母さん・お父さんになった際に、子どものときにどうブラッシングをちゃんとケアをするかということだったので、よろしくね。

歯科衛生士として、将来歯科衛生士になるためには何の勉強が必要になるの？

(がん・生活習慣病対策課)

歯科衛生士になるためには、まず高校を卒業しまして、歯科衛生士の養成校が専門学校、短大型、それから4年制大学での歯科衛生士養成施設があります。そこで3年及び4年勉強、あるいは実習を受けて、歯科衛生士国家試験に合格してはじめて歯科衛生士となります。基礎科目には数学とかもあります。

(知事)

ではしっかりと、まじめに数学も含めて理科系の勉強をちゃんとしてください。将来の夢に向かって是非よろしく。

今日の政策提案はすごくいい提案でした。そういうわけで、これからもそういった社会のために提案できる、何らかの形で頑張ってください。ありがとうございました。

(生徒2)

ありがとうございました。

(発言生徒3、2年女子)



私は、県内企業に就職する人が少ない理由として、高校生が地元の企業のことをよく知らないことが原因だと考えています。そこで、高校生の職業体験の場を増やした方が良いと考えました。本校では2年生が校外学習体験として八戸市内24カ所の事業所を調べました。さらに、県内企業への理解を深め、若者の就職数増加を高めるために、職業体験の機会を増やした方が良いと思います。

そのために、学校と県が連携して職業体験の機会を増やすのはいかがでしょうか。まず、学校が生徒の希望する職業を調べ、県の担当者から該当する県内企業を紹介していただきます。訪問することが難しい遠隔地の企業は、リモートで交流することが有効だと考えます。本校は、卒業後、進学する人が大半ですが、将来は就職すると思うので職業体験は意味のあることだと思います。この取組を通して、青森県の職場の魅力を発信することができると思います。

(知事)

ありがとうございます。とっても重要なこと、我々が今、一番力を入れていることを言ってくれました。ほとんどのことを実はやっているという思いがあるんですけども、その辺を丁寧に、丁寧に説明をお願いします。

(労政・能力開発課)

県でも課題意識を持っていて、平成30年から若者の県内就職をより一層促進するため、若者と県内企業との相互理解を深めることが重要であるという認識のもと、県外就職の割合が高い工業高校を中心に、生徒の方を対象とした企業PRイベントを開催しています。

昨年、令和3年度からは工業高校以外の学校、普通高校でも座談会という形で企業PRイベントの他に若手社員と生徒さんがお話をする機会を設けておりまして、残念ながら八戸東高校



は県内の事業所を既に訪問されているということで実施はしていないんですけれども、県では皆さんと企業とをつなげるイベントを開催しています。

次、県独自の取組、これは全国的にも珍しい取組なのですが、あおり女子就活・定着サポーターズ、通称「あおりなでしこ」による県内就職の魅力の発信にも取り組んでおりまして、高校を訪問させていただいて、青森県で働く魅力や暮らしやすさをPRしています。

今年度からの新しい取組としては、県内就職の魅力を県内外の幅広い層に発信し、より一層の県内就職への気運を高めるために、「らしく、はたらく AOMORI！」をキャッチコピーに、テレビCMや各種SNS等、広告展開をしています。

来月、2月から、またこの「らしく、はたらく」CM、SNS等、広く流れます。県内企業と一緒に県内就職の魅力のPRをしていますので、是非ご覧いただければと思います。

(知事)

では次、お願いします。いろいろやっているぞ。



(学校教育課)

教育委員会からは高校生の就職を支援する今年度の取組を紹介します。

まず、「高校生の就職総合支援プロジェクト事業」では職業人講話、資格取得等の取組を支援するとともに、県内企業理解促進プログラムとして県内6地区で計9回、県内企業見学会を行っています。ちょうど今日がこの地区の2回目の企業見学会だったので、皆さんはこちらにいて、いろんなことを学んでいるという状況です。県内企業見学会は誰でも参加可能ですので、皆さんも是非来年度、参加してみてください。

また、お話にありました職場体験に関してですが、「仕事力養成推進事業」というのがありまして、企業で就業体験をするインターンシップの実施やビジネスマナー教室等の支援を行っています。あわせて、皆さんが希望する職種や企業でインターンシップを実施できるよう、先生方や就職支援員が提携して、受入人数の拡大や新規受入企業の開拓を頑張っています。

次に、「産業教育の推進・人材育成事業」についてです。皆さんは今年度行われた全国産業教育フェア青森大会に参加しましたか。2日間で何と10万2千人が参加しました。将来の夢が看護師だということですが、大会当日には高校生が介護現場で様々な技術を披露する高校生介護技術コンテストも行われました。高校生の皆さんが中心となって創り上げ、全国に向けて本県産業の魅力を発信しました。また、そこで本県の魅力に気づくことで学校と県内企業との結びつきも深まりました。

このように、様々な産業の技術者に触れるとともに、高校生に地元の企業のことをよく知ってもらうとても良い機会となったかと思います。

今年度から実施している「持続可能な地域づくり「あおり創造学」プロジェクト事業」では、本県の課題についてみんなで探究し解決につなげることで、青森県の魅力にもっともっと気づいていただき、若い人たちに是非本県で暮らしてほしいと思っています。

(三八地域県民局地域連携部)

私たちもまずは地域の企業について知ってもらうことが重要だと思っています。

これは高校を卒業後就職した生徒についてのデータですが、ここ三八地域は県外に就職した人の割合が40.5%で、県内6つの地域の中でむつ市周辺の下北地域に次いで2番目に高いという状況です。

また、三八地域は食品製造や機械製造、金属加工といった企業が県内で最も多い地域ですが、この製造業で働く女性の割合が35.8%と、県内6地域の中で最も低いというデータが出ています。

そこで、皆さんのような若い方に、特に女性の皆さんに、地域の企業の魅力や地域での暮らしの魅力を発信して、地域の理解を深めてもらうため「38ライフワークプロジェクト」という取組を進めています。この取組は、三八地域の高校に通学している女性生徒が、地域の魅力を女子目線で調査して情報発信するというもので、今年度で3年度目となりますが、八戸市内の計5校から24名が参加しています。



これは活動の様子ですが、上の写真は訪問する予定の企業の方と、企業訪問する前に訪問先の概要を聞いたり、企業について勉強しているところです。そして下の方の写真は実際に企業を訪問して、工場の見学とか働いている人から話を聞いている様子です。

活動の詳細は、皆さんにお配りしたチラシの裏面の下にあるQRコードから確認できるようになっています。また各チームがまとめた地域の企業や暮らしの魅力は、後日、e-bookという形で同じサイトにアップします。昨年と一昨年も行っていて、もう既にアップされていますので、良かったら見ていただければと思います。

是非、皆さんのような若い方々が、改めて三八地域の魅力を認識して、ここで働きたい、ここで暮らしたいということを考えていただければ嬉しいです。

(知事)

有効求人倍率って聞いたことありますか。働く場があるか・ないかというのを示すのがこの有効求人倍率です。

この有効求人倍率、約20年前には0.29とか0.3、つまり100人仕事をしたい人がいても30しか仕事がなかった。実は青森県では、知事になって驚いたけど、産業雇用、それが最大問題で、それがずっと続いていた。今でこそ1という状態になっているんだけど。



したがって、とにかく働く場を創るために企業誘致をしました。土日は、「青森のおいしいりんご」などのセールスをやりながら、月曜と金曜は、大阪や名古屋を回って歩いて、582件、企業を集めました、あるいは企業に増設してもらいました。7,300人を超える仕事を創りました。

「地元残れ」って言ったって、「どこに仕事があるの？知事」と言われる。「そうだね。分かりました、仕事を創ります」と。一般的な企業誘致の他に、コンタクトセンターとか、事務系の誘致というものを。

その他に、起業・創業ということでは、つい10年前まで年間8人ぐらいしか仕事を自分で起こした人がいませんでしたが、今年はまだ150件を超えています。そういうふうに、ものすごく産業の構造が変わってきました。

でも、変わっているっていうことを、知ってもらうのが大変です。君たちのお父さん、お母さんの世代は、全然仕事がないというのをものすごく身に染みて知っている世代だから、「青森県、稼ぐところがないよな」というイメージを変えるためにすごく今、皆で頑張っているんです。

こうして仕事は創りました。あと農業も、所得が2倍を超えたら、年間300人ぐらい帰ってくる。でも知られていなくて、それがすごく残念。

親御さんの世代は昔のイメージのままです。だから一生懸命知ってもらおうと思っています。ありがとうね。

ところで将来の夢は看護師さんですか？将来、国家試験に通ったら、県内で就職してくれるかもしれない？

(生徒3)

はい。

(知事)

でも、そうでなくてもいいから、どこに行ってもいいけど、青森県のことを気にしてくれたら嬉しいです。では将来の夢に向かって、やっぱり看護師さんも数学が必要なんですよ、きっと。理科系って全部数学が必要。数学の勉強を含めて生物も必要だと思いますが、勉強してください。

約束。では、ありがとうございました。

(発言生徒4、2年女子)

私は、将来、アーティストのライブ制作に携わる仕事をするのが夢です。そのため、青森県を出て都心で働きたいと考えています。

先日、私個人の調査ではありますが、SNSでアンケートをとって見たところ、県内で就職したいと考えている人は61人中16人、県外で働きたいと考えている人は45人でした。

県内で就職したいと考えている人の意見としては、「親の近くにいたい、就職の競争率が都心部に比べて低い、とりあえず最初は土地勘やコネのある地元で就職してお金を貯めたい、地元が一番」などがあつた一方、県外で就職を考えている人からは、「青森県よりも生活しやすい都市がある、青森県でないといけない理由がわからない、交通の便が悪い、就きたい職業が青森県ではない」という意見がありました。

県では、地方で生まれ育った人が都心部で進学などをして故郷に戻って就業するUターン、都心部で生まれ育った人が出身地ではない地方に移住して就業するIターン、地方で生まれ育った人が故郷に近い地方都市に移住し就業するJターンの、UIJターン就職に力を入れているようですが、UIJターンに対する支援としてどのような制度があるかということ、私たちのような、いわゆるZ世代に分かりやすく広める機会をつくってみるのはいかがでしょうか。

私たちの世代は、テレビを見るという習慣、ましてやテレビでニュースを見るという人は少ないと思います。どうしたらUIJターン制度に興味を持ってもらえるかというのを考えてみるのはいかがでしょうか。



(知事)

はい、それではまた話をさせていただきます。高校時代、50年前、「八戸のこんなところにいたらダメだ、皆、東京さ行け。東京さ行かねばダメだ」と、学校の先生から本当に指導されました。

そして、皆、意外とそういう気持ちになって出て行きました。同期会をやると、東京の方が人が多いんです。そういうパターンがずっと繰り返されていて、辛いなというところがあるね。

しかしながら、我々も負けられないぞということでやっているんです。青森に来て農業、自由度があつて食えるし楽しそうだしと。

とにかく、このところそういうわけで、戻って来てすごくいろいろできるね、青森って、そういうムードがすごい高まっているんですよ。青森には、自分がチャレンジしたいことができる、そういう雰囲気がある。すごく寒いよ、遠いよ、でも明るいということですよ。

それでは、お願いします。

(労政・能力開発課)

東京に行きたいということなのですが、県では、東京に行った人に帰って来てもらうためのツール等、いろいろ用意をしています。今日は、これから進学・就職される方、東京に行かれる方がいるかもしれないんですけども、その方々、青森に帰ってきたいと思った時に使える支援制度について紹介します。

まず、県では青森県東京事務所内に「あおりU I Jターン就職支援センター」を設置しており、青森県へのU I Jターンを希望される方へのサポートを行っています。

どんな企業があるのか、就活に使える支援制度はあるのか、様々な疑問に専任の相談員がお答えしています。センターは東京都内ですけれども、青森県外にお住まいの方であればどなたでもご利用できます。実際、登録者は東京に限らず全国各地にいらっしゃいます。対面だけではなくて、今はメール、電話、Web会議ツール等で対応していますので、お気軽にご相談していただくことができます。また登録者には興味のある業種や職種に絞った情報をメールでお届けしています。

県外での就活、お金がかかって大変だと思いますが、就活やインターンシップで青森県内に来る場合、年度につき1人1回という限定ではありますが、交通費を助成する制度があります。助成対象経費の2分の1に相当する額、交通費に関しては最大1万7千円、新幹線代の半分を助成しています。ただ、公務員試験、県や市町村などの行政機関のインターンシップは対象外となっているのでご注意ください。

また県外の大学に進学した大学生の方々が、県内企業の存在と魅力を理解できるようにオンラインで気軽に参加できる企業研究会を11月に行いました。

次に青森県の就職・就活に関する情報発信ツール。まず1つ目、青森県公式就職情報サイト「あおりジョブ」では青森県内の企業情報や求人情報、インターンシップ情報を、業種別・地域別に検索することができます。またイベントや支援制度に関する情報も掲載しています。

現在、青森県で働く6名の方々の、U I Jターン就職のきっかけや仕事のやりがいをインタビューした動画や体験談の掲載を行っています。U I Jターン就職された方の本音トークが聞けるチャンスですので、是非ご覧いただければと思います。

次に、青森県公式就活アプリ「シューカツアオモリ」です。こちらはスマートフォンで簡単に青森県内の企業情報やイベント情報をゲットできるものです。県主催のイベントだけではなく、青森県内で開催される様々な就活イベントをお知らせしています。ダウンロード無料、個人情報の登録も不要ですので、すぐ使えます。新着情報があるとプッシュ通知が届きますので、気になるイベント情報を見逃すこともないかと思えます。是非卒業前にダウンロードしていただければと思います。

県内企業の情報、約200社、人事担当者や若手社員の声、県内就職した先輩のエピソードなどを掲載した「青森県企業ガイドブック」も作成しており、県のホームページでも公開していますので、県内企業を知る機会として覗いてみてください。

今後、県とU I Jターン就職促進連携協定を締結している大学は現在22校ありますが、そちらの大学や学生に対し、本県のU I Jターン就職支援施策や県内企業の情報をしっかりと届ける仕組み、新たに構築したいと考えています。県外の大学に進まれても青森県の情報をお届けできるような仕組みを考えていきたいと思っていますので、これからもどうぞよろしくお願ひします。

(地域活力振興課)

国の調査によると、コロナ禍で特に若い世代の方々の地方移住への関心が高まってきています。青森県でも東京・有楽町の駅前に青森県へU I Jターンしたい方のための相談窓口を設置したり、東京でU I Jターンを促す相談会を開催して、青森県の魅力をPRしたり、U I Jターン希望者から相談を実際に受けたりしていて、青森県に移住したいとご相談して下さる方も年々増えてきています。相談者は20代から30代の方が多くて、若い世代の方々に、県でこういった相談窓口があるんだよということを知ってもらふことはとても重要だと考えています。

そこで県では、県外に住んでいる方向けになりますが、青森県に興味があるとか青森県出身で地元に戻りたいという方々を対象に、移住をちょっと意識させるようなインターネット広告を出したり、県内にいる家族から県外のUターンを考えている人に伝えてもらえるようなPRとして県内の新聞に広告を出す、といった取組を行っています。



また今年度、新しく始めた取組として、この春に高校や大学を卒業する方々に、チラシを配布しました。このチラシには先ほどのサポートセンターの情報等、将来、青森県に戻りたいと考えた時に活用できるような情報を載せています。

(知事)

SNSとかIoTとか、いろんなキャンペーンの手段を使っています。

最も役に立ったUIJターンの広報って何だったと思う？

答えを言う。お盆の頃、新聞にUIJターンの催しに関するチラシを折り込んだ。親御さんがそれを取っておいて、子どもさんが来ると、「ほら、こういう会があるから行ってみる。」と。「どうやって知った?」「いや、親がチラシを持ってきて、これを見ろと言われた。」

だからね、決して新聞広告を侮ってはいけない。挟んでいるとピッと取って、それを親御さんがお子さんに渡してくれる。

そういうふうにして世の中ってオーソドックスな方法もいろいろあって面白いね。

それで実は青森県は今、女性が元気がある。女性の社長、前は1位だったのが3位になったけど、それでもすごい。それから女性管理職が多い。

あと青森県の暮らしやすさ。ぎゅうぎゅう混雑する電車がなくて、土地が安い。家賃が安い。公園が多い。

ただ、うちの健康福祉部と商工労働部に言われたのは、待機児童、子どもも少ないんだけど、認定こども園が全国1位の状況とか、延長保育の状況も全国1位で、他所から来た人に言われる。女性全体の有業率、育児をしている女性の有業率の差、これが一番重要なんだって。働きながら、ちゃんと育児ができる、断トツ青森県はいいんだ。地元にいる人は全然サービスがないと言うんだけど、健康福祉部と商工労働部が、「必ず、知事言ってください」と言うんだけど、すごく女性のための配慮と段取りがある。というのが青森県の状態です。

君たちは進学をする、いろんなことを学ぶ、力をつける、いろいろな所に行く、いいのよ、それはそれで。でも帰って来たいと思った時に、いろいろなジャンルのいろいろなタイプの仕事があるし、技術を身につけた時に自分で商売とか仕事、起業・創業できるという状況になっている。そういったチャレンジする人、自分自身の人生を自分で生きてみようと思う人には、そこに開かれた社会が、開かれた地平線が今、青森県にはあるということでお話をしたかったです。

あと女性を応援する、就職活動を応援する集まりがあるし、あと技術系、林業女子会とかきらきら土木女子会とか建設女子会とか、エンジニア、技術系、オペレーターとか土木、そういった方面ですごく増えている、帰ってきている。女性の活躍、具体的に女性がいろんなことができるようになっていく。それが今の青森県だということのをちょっと片隅に入れておいてくれるとありがたいと思います。

東京に行っていたら就職をするのは大丈夫だと思うけれど、地元にも結構学べて即戦力になるところがあるんだよ。従って、いろいろ学んできたら戻って来て一緒にやるということもできる。自分で独立、会社を創ることもできる。

今日司会をしてくれた方、将来の夢は何ですか？



(司会)

舞台やイベントなどの企画運営をやりたいと思っています。
プロデュースをする方です。

(知事)

プロデュースをするためにはスポンサーを確保しなければいけないし、人間関係をととても良くするというをどこで学べるかといったら、いろいろな人と付き合ってみたら。そのためには勉強をすることだと思います。よろしくをお願いします。

1つだけ言いますと、青森県はものすごくがんが多いです。野菜などの食生活もがんに影響します。また、タバコを吸っている人は肺を痛めやすい。これ、一目瞭然で分かるでしょう？吸っている人と吸っていない人。ということで、最後、これを付け加えました。

県民局長、何か一言、エールを送っていただければ。お願いします。

(三八地域県民局)

青森県はやる気のある人、それから協調性のある人、アイデアを沢山持っている人を求めています。やる気と元気のある皆さん、是非青森県を就職先として考えていただければと思います。よろしくをお願いします。



(司会)

では最後に三村知事より感想をお願いしたいと思います。

(知事)

私たち青森県としては、先ほど有効求人倍率の話をしたけど、ほんの少し前は0.29だよ。100人いて29人しか飯を食っていけないという、とんでもない状況だった。でも皆、県民の皆様方、皆さんのお父さん・お母さんも含めて、こんなにいろんな仕組みを作ったり企業を誘致したり起業・創業を進めたり、農業で食べていけるようにしたり、ということをチャレンジし続けてきました。

一番言いたいことは、君たちが、世界の中でどう生きていくのかというのを自分で考えてほしいということ。今はとにかく勉強なんだと思います。しっかりと勉強して、着実に生きていく。当たり前だけど、一人ひとりが自分の人生を自分として生きるということを実践してくれたら嬉しいと思います。

学力と品性の向上、まさしくそうだと私も思いました。皆さんの思いが伝わってきたし、またそれを皆さんに返したいと思います。

今日はいろいろ我々も学ばせていただきました。とてもいい授業ができました。本当に感謝します。ありがとうございました。

